

## 禁足地

拝殿の裏手にある囲われた区画は、石上神宮で最も神聖な場所であり、布都御魂剣が安置されている場所である。この神剣は布津御魂（ふつのみたま）のご神体であり、石上神宮の中心的遺物であり、神宮はこの神を祀るために創建された。この区画は、"足を踏み入れてはいけない地"を意味する「禁足地（きんそくち）」の名称が示すように、厳重に立ち入り禁止となっている。

古代の記録には、崇神天皇が紀元前 91 年頃、布都御魂剣の奉祀を命じたことが記されている。その後、剣は布留川の近くの石上布留の高庭と呼ばれる地に埋納された。布都御魂剣の位置の目印として 樹が植えられた。その後、その地は石上神宮の禁足地となった。

それから約 2000 年後、菅政友（1824-1897）という新参の宮司が禁足地に興味を持った。彼は政府に考古学的発掘調査の許可を願い出、1874 年にいくつかの古代の遺物を発見した。その中には、布都御魂剣と思われる丸柄の鉄剣もあった。1913 年、この神剣は聖域に移され、現在もその場所に安置されている。